

# 週刊センターニュース No.64



第64号(2005年6月13日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

- 第78回 日時: 6月16日(木) 16:20~17:50  
会場: 総合教育棟南棟2階 大会議室  
報告者: 堀井 祐介(大学教育開発・支援センター)  
題目: 「日本高等教育学会第8回大会参加報告」
- 第79回 金沢大学IT推進プログラムの一環として、当センター共同学習会と本学イーラーニング研究会との第11回合同研究会として開催します。  
日時: 6月23日(木) 16:20~17:50  
会場: 総合メディア基盤センタープレゼンテーション室  
報告者: 冬木 正彦(関西大学)  
題目: 「授業支援型 e-Learning システム CEAS(シーズ)とその実践事例」  
概要: 学生の学力低下・多様性への対応や外部評価への対応など大学の教育が直面する課題に対して、どのような「eラーニング」であれば解決につながるのか、システム開発と関西大学での教育実践事例を基に講演する。教育を支援するシステムが「簡単」に使えるための仕組みがどのように実現されているか、実際に利用している先生はどのように評価しているか、また学生はどのように受け止めているか、さらにシステムの運用上どのような要望がでているかなどを取り上げる。
- 第80回 日時: 6月30日(木) 16:20~17:50  
会場: 総合教育棟南棟2階 大会議室  
報告者: 西山 宣昭(大学教育開発・支援センター)  
題目: 「教養カリキュラム改革について」

## 公開研究会「中国における世界一流大学の育成に関する政策プロセス分析」参加報告

4月22日(金)に広島大学高等教育研究開発センターで開催された2005年度第1回公開研究会に参加した。テーマは「中国における世界一流大学の育成に関する政策プロセス分析 - 大学と政府との協力 -」、講師は、陳学飛氏(中国北京大学教育学院教授・副院長、広島大学高等教育研究開発センター外国人研究員)であった。

中国では、1998年から世界一流大学育成を目指して「985工程」という政策が動いている。「985工程」とは、1. 教育研究基盤重点化、2. 学科(専門分野)重点化、3. 給与面、福利厚生面での教員待遇向上を柱とする、大学全体の重点化政策である。まず、1998年5月4日人民大会堂での北京大学創立100周年記念式典において、江沢民国家主席が中央政府名で「現代化を実現するため、わが国はいくつかの世界トップレベルの一流大学を持たなければならない」と宣言した。これを受けて教育部が「21世紀に向けた教育振興行動計画」を公布し、世界トップレベルの一流大学と一流学科創設を重点的に支援することを決定した。その後、「985工程」が本格的に動き出した。こうして、北京大学が1986年に宣言した「世界一流大学に到達する」という学内目標が政府政策へと変化していった。また、「985工程」の特徴としては、「価値判断が先、政策法案は後/政策決定が先、具体案設計は後/政

策目標表明が先、部門あるいは具体的政策は後」というのがあげられる。中央政府からの具体的な支援としては、1998年から2000年度に約48億元が支出され、そのうち18億元が北京大学へ割り当てられている。

中国での大学へ重点化政策としてはもう一つ「211工程」があげられる。これは、21世紀へ向けて100校程度の世界的に高いレベルの大学・学科をつくることを目指して1995年から進められている政策であり、2000年までに99校が「211工程」の補助を受けている。「985工程」と「211工程」では、目標、指定校を選ぶ方式と数、重点支援の内容、予算が異なっている。「211工程」では、若干の政治プロセスはあるものの、基本的には、学位授与数、院生数、研究費などをもとに、専門家による委員会で指定校が決定されるが、「985工程」はあくまでも政治プロセスで指定校が決定される。大学からの中央政府、地方政府への働きかけが重要で、学長の政治力がポイントになる。現在、両工程とも第二期に入っているが、「985工程」では38校が指定されている。これら指定校は数の上では、中国全体で1348校ある全日制普通大学の3%であるが、博士学生数、重点学科数、国家の重点実験室数、大学院の数などではそれぞれ50%以上を占めており、中国の高等教育と科学研究において中核的な役割を担っている大学が指定校に名を連ねている。

最後に、北京大学における「985工程」導入の影響について簡単にふれておく。「985工程」で配分される予算は従来のシステムには使えないので、大学運営システムの変更が必要となった。また、以下のような、競争原理も同時に働くようになった。管理職ポストを4年の任期制で競わせる。教員も任期制で、研究力で評価される。大学での研究にも市場化原理を導入。教員募集も国際レベルで実施。教授への昇任も世界レベルで審査。現在、北京大学では全教員の3分の1が海外からまたは海外で学位を取ったもので、3分の1が北京大学以外の有名大学出身者、北京大学出身者は3分の1である。この海外組はアメリカモデルへのシステム改革の原動力となっており、また、管理職はほとんどが海外留学経験を持っているとのことであった。(文責 教育支援システム研究部門 堀井)

## センターからのお知らせ

- ・センターニュースへの投稿、歓迎します。
- ・共同学習会での報告、歓迎します。